

不況下こそ産学連携は重要

山本 貴史

※不況下こそ産学連携の重要性は増す。

2005年度と2006年度の実績比較(大学技術移転協議会加盟71大学及び機関の実績)

	2005年度		2006年度
□ ライセンス契約件数	1056件	⇒	1128件 (6.8%up)
□ 継続中ライセンス総数	2731件	⇒	3694件 (35.3%up)
□ ライセンス収入	10億7183万円	⇒	13億4825万円 (25.8%up)

産業界における投資意欲の減退が見られる景気後退期こそ、産業振興や新規事業創成の観点からも産学連携の重要性はより高まることは、必至であり、国としての産学連携の支援の継続が重要である。

※学生の発明取り扱いの課題

共同研究を行った際の学生の発明の取り扱いについては、産業界からも契約による大学一元管理を求める声が多く、各大学においても苦慮しているところである。これについては、国大協からも国としてのガイドライン作成等の取り組みが求められている。